

全農とちぎ イチゴ輸出本格化

J Aかみつがから17年産初出荷

東南アジア3国で販売

【とちぎ】JA全農とちぎは、今年から県産イチゴの実売ベースでの東南アジア向け輸出に本格的に取り組むことになり、JAかみつがで6日、2017年産を初出荷した。主にマレーシア、インドネシア、シンガポールで販売される。



県産イチゴの東南アジア向け輸出は、昨年始まった。昨年は3カ国を中心に444キを輸出。現地で高い評価を得たため、今年からさらに力を入れることになった。

県産農産物は現在、県内の輸出商社「ユーユーワールド」を通じ、梨「にっこり」が東南アジア各国に輸出されている。イチゴも同社と取引のある現地パイヤーの協力で実現した。

今年には県産の「とちおとめ」「スカイベリー」

J Aかみつがから東南アジアへ向けて出荷される17年産「とちおとめ」(6日、栃木県鹿沼市で)

を昨年の倍以上、約1トを目標に空輸で送る予定。同日はその第1弾の初日で、2日目の12日と合わせて276キをマレーシア、シンガポール、インドネシアに輸出する。その後、県内各産地JAからも順次出荷される。

各国では有名百貨店や高級青果店などで販売する。空輸のため国内とはほとんど同じタイミングで販売が可能という。

栃木県では9、18日間で、マレーシアとシンガポールで「ストロベリーキングダム訪日外国人PR事業」によるイベントを展開する。

2カ国の有名レストラン各5店舗で、デザートとして、今回送ったイチゴを提供。来店客や有名ブロガーなどから会員制

交流サイト(SNS)などで情報を拡散してもらう。現地販売との相乗効果での販路拡大や、県への誘客にもつなげる。

全農とちぎは「厳選したイチゴを出した。今後、現地の反応を見ながら、早期の目標達成を実現したい」と話す。